

「気持ちいい 道路であいさつ にっこにこ」

～令和5年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を特に推進することにより、道路を利用する国民に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識していただき、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：90団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過ごされがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。58回目を迎える本年は、全国から2,950作品もの応募がありました。

応募作品について、推進標語審査懇談会の三好礼子氏（エッセイスト、元国際ライター）、やすみりえ氏（川柳作家）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト）の3名の委員による選考を経て、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部] の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品を決定しました。

入選作品の標語は、令和5年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

◆令和5年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「気持ちいい 道路であいさつ にっこにこ」

ながぬま ゆうな
長沼 結那さん（山梨県 昭和町立押原小学校）

（やすみ委員）小学生の部は「通学路」で見たこと感じたことを標語にした作品が圧倒的に多く、低学年の可愛い言葉遣いや、高学年のしっかりとした表現などバラエティーに富んでいるのが特徴です。その中から、今年度は「気持ちいい 道路であいさつ にっこにこ」が最優秀賞に輝きました。

さらに、厳正な選考を経て今年度の代表標語に決定させて頂きました。素直な気持ちのまま標語になっていて、この言葉を受け取るこちら側まで「にっこにこ」な気分になる素敵な標語だと思います。

【中学生の部】「この道は みんなをつなぐ 赤い糸」

たなか ゆうき
田中 勇樹さん（京都府 京都市立洛北中学校）

（吉岡委員）応募された数多い標語から伸び盛りの生き生きとした感性が伝わってきました。最優秀賞の標語は「赤い糸」という視覚的な要素が印象的な作品で、自分が周りの人々とつながっているという安心感や広がり、その先の夢まで感じさせられます。優秀賞「急いでる…」は言葉づかいがリズムカルで、道路で弾む気持ちとその危険への戒めが的確に表現されています。「道ゆずり…」は、中学生としての誇らしさでしょうか、道路でのマナーが生活への自信につながるのでしょうか。個性豊かな3作品、入選おめでとうございます。

【一般の部】「ゆずりあい ふわり優しさ 積もる道」

かわの のぶゆき
河野 喜幸さん（東京都 世田谷区）

（三好委員）標語では多く詠まれる「ゆずりあい」ですが、それだけに実は難しいテーマ。大雪は道路にとってはやっかいものですが、「ふわりやさしさ」が積もるならば、どんなに楽しい世界でしょう。ゆずった時やゆずられた時に感じるあのふんわりした気持ち、自然の情景と共に広がっていきます。自分のテーマ標語にしたいくらいテンポがよく道への愛が感じられる優秀賞の「みつけたよ…」の道も、きっとそんな素敵なものがたくさん積もっているのでしょうか。最優秀賞は冬だけにとどまらない不思議な季節感がありますが、どの標語も言葉の使い方がとても自然で驚かされます。優秀賞の「大丈夫…」の標語も、まるでその場にいるかのような臨場感があり、どこまでもやさしい気持ちになれます。道路と心は密接ですね。

《最優秀賞3作品のうち、委員が特に高評価をした「気持ちいい 道路であいさつ にっこにこ」を今年度の代表標語とします。》

優秀賞（6作品）

【小学生の部】

「安全な 道路がいいな ありがとう」

せりざわ らいと
芹澤 星斗 さん（静岡県 御殿場市立玉穂小学校）

「この道で 泣いておこって 喜んだ」

おきまき るあ
尾崎 瑠亜 さん（鳥取県 岩美町立岩美北小学校）

【中学生の部】

「急いでる 待て待て待って 落ち着こう」

うちむら そら
内村 奏楽 さん（福岡県 糸島市立志摩中学校）

「道ゆずり 少し大人に 近づいた」

たにくち
谷口 ちよ さん（兵庫県 神戸学院大学附属中学校）

【一般の部】

「みつけたよ この道 あの道 好きな道」

いちほら としゆき
市原 利行 さん（高知県 高知市）

「大丈夫 慌てず渡って いいからね」

かわい かほ
河合 花歩 さん（兵庫県 神戸学院大学附属高等学校）

◆審査委員◆【総合選評】



三好 礼子 委員

毎年、みなさんの作品を拝見するのが楽しみでなりません。「道路」というキーワードひとつでどこまでも広がる世界に、笑ったり共感したり考えさせられたり。今年も改めて言葉は生きているのだなあと感じました。代表標語の「にっこにこ」、優秀賞の「待て待て待って」など、生活からボンと飛び出したような言葉たちは、標語を作る自由さを示してくれた気がします。全体に穏やかで優しく相手に思いやるようなメッセージが多かったですね。道で出会うもの、道の先にあるもの、それぞれの生きる道にも光がいっぱい当たりますようにという思いで選びましたが、読むだけで元気が出てくる標語たちが並びました。



やすみりえ 委員

今年度も全国の皆さまから多数ご応募いただき、この標語募集への関心の高さを実感しました。道路にまつわるさまざまな思いを「標語」という形で伝えるために、日頃の風景を改めて見つめ直してくださった方も多く見とれました。どの部門も、全体的に人とのふれ合いや感謝の気持ちを表した作品がたくさん寄せられた印象です。それは、長く続いたコロナ禍での生活を通して社会や人とのかわりについて考えさせられる場面がいくつもあったことと関連しているのかも知れません。また「ゆずり合う」「急ぐ」「慌てずに」などの言葉もよく使われていた傾向を見受け、私たちの日常の中から今後どのような標語が生まれてくるのか、一層興味深くなりました。



吉岡 耀子 委員

数多い作品が寄せられました。コロナ禍の長いトンネルを抜けて光が差しつつある中で作られたものもあったと思います。私たち審査委員も、活動再開後に道路を活気づける勢いや明るさへ気持ちが向いていました。代表標語に選ばれた作品では、「にっこにこ」という子供らしい言葉が大人にもダイレクトに伝わってきます。内容も素直で、まるでニコちゃんマークが道路で子供達を見守っているような、そんな楽しいイメージが湧きます。ここで選ばれた作品群が翌年への刺激となり、ゆくゆくは「道路」文化の一端を担うようになれば幸いです。

＜お知らせ＞